

# 利賀っ子だより



R4. 9. 29

## ○ ICT機器を活用した交流学習

先日、中学年、高学年の子供たちが、氷見市立十二町小学校の子供たちとそれぞれオンラインで交流をしました。昨年度もオンラインやメッセージのやり取りをして交流しましたが、今年度は初めてでしたので、「ぼくのこと覚えているかな。」「(山村留学で)4月から利賀に来たから『あれ?』と思うかも。」など、少し心配している様子が見られました。

互いの自己紹介が終わり、学校生活や地域の様子を質問し合う頃には、すっかりと打ち解け、どんなことをどのように伝えと分かりやすいのかを考えながら交流をしていました。



【話を聴き取ることに真剣な

3・4年生】



【原稿を確かめ合う高学年】

高学年は、外国語の学習で、市内の別の小学校の5・6年生に夏休みの思い出を紹介するために絵や写真を用いてプレゼンテーションを作っていました。この時間は、タブレットで録音した自分の発表を聞き直したり、友達に聞いてもらったりすることを繰り返していました。

ICT機器が充実し、簡単に遠方の学校と交流できるようになってきました。子供たちにとっては、より多様な考え方に触れたり、自分や自分の学校を見直したりするよい機会でもあります。

伝える相手をはっきりとしていること、伝えたい気持ちが高まっていること、伝えたい内容があること、どれも子供たちの表現の力を高めていくために欠かせない支援であることを意識しながら交流の機会を大切にしていきたいと思います。

## ○ 「大変なこと」

5年のAさんが、「校長先生、大変なことが起きました。」と報告に来ました。聞くと教室の暖房機の中にペンが落ちてしまい、取れなくなったとのことでした。「火事になるかもしれない。」と心配する子供、「曲尺みたい長い、しっかりしたものかあると取れるかも」「針金みたいな自由に形が変わるものの方が使いやすいよ。」など解決方法を考える子供。そのうち、鉛筆や消しゴム、磁石、ペン等、過去の遺産がいくつも暖房機の中や下から出てきました。



【暖房機の総点検！】

この後、子供たちは、他の教室の暖房も点検し、朝の会で全校に注意喚起していました。思わぬ展開と子供たちの実行力がうれしいできごとでした。 (高田 公美)